

幼児教育・保育と小学校教育との接続の充実に向けて

幼・保・小の接続が充実すると、子どもの発達や遊び・学びの連続性を踏まえた保育・教育の充実を図ることができます。そうすることで

- ・子どもたちが安心して就学できる
- ・社会情動的スキルを育むことができる
- ・接続期を通して社会の中で子どもの育ちを捉える意識が共有される などのよさがあります。

◆幼・保・小の接続の充実に向けたポイント◆

①推進体制の組織化

幼・保・小の接続の必要性について全職員の共通理解を図り、**推進体制を組織**しましょう。幼・保・小が接続を意識したカリキュラムを活用し、それぞれが指導方法を工夫しましょう。

②幼児と児童の交流

就学前の幼児が小学校の活動に参加する等、幼児が児童に憧れを抱いたり、児童が自分の成長に気づいたりできるようにねらいを明確にした計画を立て、意義のある**交流活動**となるようにしましょう。

③職員の連携促進

職員が共に幼児の成長を共有し、保育・教育内容や指導方法の違い等の**理解**を深めましょう。合同研修や参観等を通して「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を共有し**連携**を図りましょう。

幼稚園・保育所

学びの芽生え



遊びを中心とした保育・教育

幼児の自発的な活動としての「**遊び**」を通して、様々な体験や学びの芽生えを積み重ねることができるよう保育者が環境を構成し、一人一人に応じた総合的な保育・教育活動



カリキュラムや保育・教育内容、指導法の違いなどを理解し、連携を図ることが大切です。



接続期のカリキュラム

教科等の**学習**を中心とする教育

決められた時間割に基づき、教科書などの教材を用いて各教科の内容を意図的・計画的に進められる教育活動

小学校

自覚的な学び



新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、直接的な交流活動や合同研修、参観等が行いづらい状況が続いています。しかし、この間、オンラインを活用した交流システムやICTを活用した学習環境等の整備が進められています。幼保小の接続の充実に向け、こうした新たなツールの効果的活用が求められます。

Q:どのように推進体制を組織したらいいですか？

A:職員全員に対し、幼児教育における学びの芽生えを生かし、小学校教育における自覚的な学びへとつないでいく意識が求められます。そのためにも、まずは幼・保・小がそれぞれのカリキュラム等について理解する場を設けることが必要です。行政主導のもと、各研究担当者同士の意思疎通を図る場を設けることが大切です。

Q:どのような交流がありますか？

A:以下のような交流があります。

- ・小学校の運動会に園児参加のプログラムを設ける。
- ・小学校の総合的な学習の時間における探究活動の発表会に園児を招く。
- ・園の一日と小学校の一日の違いを見つける園・学校探検を行う。
- ・オンラインを活用し、児童が園児の質問に答える。
- ・児童が、園に行つて小学校の学校生活について紹介する。など

Q:研修時間の調整等が難しいのですが…

A:幼・保・小それぞれで行っている研修の年間計画の中には、様々な研修内容があると思います。そこで活用するスライド資料等を共有するだけでも、互いの理解が深まるはずで。さらに、そうした資料をもとに、研修動画を作成し、時間を選ばず閲覧できる（オンデマンド研修）状態を整えることも有効です。

令和元・2・3年度福岡県重点課題研究指定・委嘱事業「幼・保・小・中の主体的な学びをつなぐカリキュラム・マネジメント」

【研究目標】 幼児期から児童期、青年期への発達、遊びや学びの連続性を確保するためのカリキュラムの編成や、幼児教育と小・中学校教育の連携を通して、円滑な接続を図る推進体制の在り方を究明する。

【研究指定・委嘱地域（校）等】 久山町教育委員会（久山中・久原小・山田小・けやきの森幼・ひさやま保）
桂川町教育委員会（桂川中・桂川小・桂川東小・桂川幼）

※福岡県内の幼児教育・保育に関わる各団体の研修一覧や幼保小の接続の充実に関する資料、実践園・実践校の取り組みの進捗等の情報は右のQRコードもしくは「義務教育課各種資料」で検索してください。

実践園・実践校の紹介



福岡県教育庁教育振興部義務教育課 URL <http://gimu.fku.ed.jp>

義務教育課各種資料

検索

福岡県幼児教育・保育推進協議会